

経営と健康



日本史を彩った女性たち

第五回

「悪女列伝」

講談師 一龍齋貞花



紫式部に始まり歴史上の女性を紹介していますが、今回は悪女を紹介します。北条政子、日野富子、淀君が日本三大悪女とされています。

父・時政の反対を押し切って嵐の晩流人源頼朝の許へ走った北条政子。これだけの情熱ならばこそ、夫の浮気に激しく焼き餅を焼いたのもうなずけます。源頼朝没後長男頼家が将軍に就任。比企能員ひきよしかずの娘が頼家の子一幡いちばんを産むや、比企一族は勢力を強め北条一門と対立。政子は能員ばかりか一幡も殺害し、頼家を修善寺に幽閉し、次男実朝を将軍に。実家北条のためであったが、父時政が後妻の娘婿を将軍にしようとする目論みや、弟義時と二人で父を隠居させ娘婿を殺害。実朝が頼家の子公暁に暗殺され源氏の後継者が途絶えるや、政子は

尼将軍として立ち上がり、後鳥羽上皇と対決した承久の乱。

「頼朝公の恩に報いるべく戦え。私の意に従わざる者は、私を殺せ」と檄を飛ばし、この気概が勝利をもたらし、後鳥羽上皇、順徳天皇、土御門上皇の三人を流罪。戦後処理は政子がほとんど行ったといわれ、以後弟義時とともに北条執権幕府に。朝廷に反逆したときれ悪女とされたのである。

しかし私は、優れた決断力と行動力で企業を守った実力女性社長と評価しています。

夫婦別姓の日野富子

足利将軍義政は男の子に恵まれません。弟義視を後継者に定め、細川勝元を後見職に任命。ところが翌年妻富子が産ん

だ義尚に将軍職を継がせたいと思うが、有力者細川が後見職とあつて覆すのはむづかしい。しかし富子はなんとしても我が子を後継者にしたい。そこで勝元に対抗すべく山名宗全を義尚の後見職に。ここに将軍後継をめぐる細川と山名が対立し応仁の乱となり、我が子可愛さの横車が乱世を起し、戦国時代へと進展。

義政は女房に尻を叩かれ義尚を将軍職に任命。日野富子は我が子を補佐して思うがままに腕ふるい、関所の通行税、宮中の修理だの米倉を建てて米を貯え、相場によって売買して儲ける。その金で高利貸、しかも敵方の畠山義就に千貫文（約5千万円）貸した記録もある。

高利に苦しむ庶民が徳政一揆を起し棒引きにしてほしいと訴えた。これに対し富子は金を貸した権利を幕府に申し出た者は取り立ててよい。但し斡旋料

2割払うこと。この斡旋料で一億円以上の儲け、巧みに私腹を肥やすというやうな放題。亭主義政「わしや知らん」と山荘へ引きこもり。

しかしこれだけの才覚、相当な政策通でなければ出来るものでない。外国貿易もしたという。亭主もだらしなが、夫婦別姓の先駆けをした典型的な自立女性ともいえますよ。

亭主たるもの、もう少ししつかりしましょうや。

豊臣家を滅ぼした淀君

浅井長政を討った豊臣秀吉は、未亡人お市を側室にせんとしたが、兄信長の家来だった秀吉を嫌ってお市は柴田勝家と再婚するも、秀吉に敗れお市は夫勝家と共に城を枕に討ち死。茶々、お初、

小督の三姉妹は秀吉の元に送られ、やがて美しく成長した茶々は秀吉の側室に。淀城に住んだところから淀君と呼ばれ、最初の子鶴松は出産後間もなく亡くなったが、後継者秀頼を産むや（秀吉の子でない説有り）好々爺秀吉を手玉にとり、秀吉没後実権を握り石田三成を可愛がり、武闘派加藤清正、福島正則は正妻おねの方へ。関ヶ原合戦、大坂の戦でも総大将我が子秀頼の出陣を認めない。軍師真田幸村を用いず寵臣を重用し、豊臣家を滅亡させたところから悪女といわれるが、豊臣家を滅ぼしたのは両親を殺した秀吉への仇討ちだったという説も。もしそうだとしたら仇の側室にまでなつて仕返しとは女性の執念は凄いの一語につきますね。

乱世の悪女たち

建武の中興という後醍醐天皇をわずか三年で崩壊に導いたという寵妃阿野廉子。後醍醐天皇の寵愛を独占する一方、崩壊の一因には、廉子対護良親王による政権内抗争があるとして、「雌鳥が鳴いて夜明けを報せると一家が滅ぶ」という中国の諺が引用され傾城。傾国の代表とされてしまった。妖艶な女性だつ

たそうで後醍醐天皇をたぶらかしたと悪女にされた。

美人で才智にたけていた藤原菓子。太政大臣藤原種継の娘で、西海道觀察使藤原繩子に嫁ぎ三男二女を出産。長女を皇太子の妃にしその縁で東宮に出入りするようになると、桓武天皇が菓子の評して「淫にして義を凌ぐ者」と憂慮した通り、娘婿の皇太子と密通したため追放されたが、その娘婿が平城天皇に即位するや関係復活。後年、平城上皇と嵯峨天皇の権力争いから発展した弘仁の乱は、菓子の乱ともいわれているほど。

後醍醐天皇に寵愛されている美人の勾当内侍を見初め、妻にもらいうけた新田義貞。妻と離れたくないため逃げる足利尊氏を追わず討ちもらしてしまつた。この時「あなた行つてらっしゃい。ご武運をお祈りしお帰りをお待ちしています」と言つて送り出していたら賢夫人の仲間入り出来た。美人すぎる妻を持つのも考えものです。

前述の日野富子が足利義政に嫁ぐ前から、義政の側室として義政を取り

巻き室町幕府を思うがままに動かした今参の局。それに烏丸資任、有馬持家とまのつく三人が結託したところから「幕政は三魔に出ず」と悪評されたところから三魔の一人、富子が実権を握つていたはずだがどうなつていたのか。

後白河法皇に寵愛され院政に参画し、隠然たる力を有して鎌倉幕府に対抗し、政敵九条兼実追放を図つた丹後局。後白河後宮の楊貴妃と人々は称した。

美貌と知性で鳥羽上皇の後宮に入り、妹仁親王を出産した美福門院得子。鳥羽上皇の中宮待賢門院は白河法皇と密通し後の崇徳天皇を出産。それがため不義をした本妻より得子を寵愛。得子が強く望んだのであろう崇徳天皇を退位させ、わずか三歳の我が子を即位させ近衛天皇に。ここに鳥羽、崇徳対立。近衛天皇が病弱で十七歳で亡くなると、得子は後白河天皇を擁立。鳥羽天皇が亡くなるや後白河天皇方と崇徳上皇方の武力衝突に至つた保元の乱。川崎大師平間寺に願をかけたところから平間寺を信仰し、美福門院が口紅でしたためた紅縁起が、ご開帳の時病難を除く功德ありと授与される赤札。

美貌にまどわされた男も悲しいが、大河ドラマ「光る君へ」の中で、権力を握るため策をこうじて花山天皇を出家退位させるを描かれるなど、魍魎魍魎の世界です。

漢の高祖劉邦の後、呂后
中国唯一の唐代の女帝、則天武后
清の太宗皇帝の後、西太后

この三人が中国三大悪女といわれ、いづれもライバルの女性の手足を斬つて瓶の中へ入れる荒事で後の座を手に入れ、帝を籠絡しやりたい放題。則天武后は女帝にまで登りつめ国を動かした。この三人にプラス1が毛沢東の妻江青。文化大革命の先頭に立ち死者推定2千万人。文化財破壊は記憶に新しい。楊貴妃にフランスのマリー・アントワネットは悪女ながら観光の目玉になつている。しかし悪女といわれるものの容貌だけで天下を動かすことは出来ない。知略、能力、胆力あつたればこそ。多くが負の最期の中、政子は北条政権の基盤を作つた。

以前総理より目立つ奥さんもいました。国を動かすのは男、その男を動かすのは女性、女房次第で男は変わるかも。かあちゃん、よろしく頼みますよ。